

掴め君の未来を！

初の大学入学共通テスト終了！

慶進中学校・高等学校
進学指導部
令和3年2月1日発行



全体概観

(特例追試験は今年13、14日に実施予定)

志願者数53万5245人で、前年のセンター試験と比べ4.0%減。
現役生はほぼ平年並みだが浪人生が約2割減と大きく減った。実施前には「難化するのでは」と思われていた共通テストだが、1月20・22日に報道された中間集計を見ると、国語・数学・英語の平均点が約6割だったほか、5割を下回る科目はなく、センター試験とほぼ変わらない平均点となった。
公民・理科②においては、科目間に20点以上の得点差が生じたため、得点調整が行われる。
コロナ禍のため本試験第二日程と特例追試験が設けられたが、第二日程を本試験として受験する者は全国でも800人にも満たず、山口県内では0人であった。第二日程は、悪天候や、疾病・負傷等の理由で第一日程を受験できなかった受験生の追試験として行われた。

教科・科目別平均点 (1月22日発表の中間集計)

() 内の数字は昨年の中最終集計との比較

英語 リーディング58.81点(昨年より0.65↑) リスニング56.16点(1.4↓)
(いずれも昨年の平均点を100点満点に換算して比較)

リーディングは、科目名が「筆記」から「リーディング」に変わり、配点が200点から100点になり、「発音・アクセント・語句整序など」が単独では出題されないなどの変更があった。
リスニングは、配点が50点から100点へ。問題数が増え、第3問～第6問は音声が1回のみとなり難化。

国語 117.51点(1.82↓)
数学 数Ⅰ・A 57.68点(5.8↑) 数Ⅱ・B 59.93点(10.9↑)

ⅡBは20日の中間集計では6割を超えていた。現行の学習指導要領になってから6割を超えたことはない。

地理歴史 世界史B 63.48点(0.51↑) 日本史B 64.26点(1.19↓)
地理B 60.06点(6.29↓)

公民 倫理 71.96点(6.59↑) 倫理・政治経済 69.26点(2.75↑)
現代社会 51.96点(5.34↓) 政治経済 49.87点(3.88↓)

理科 物理基礎 37.56点(4.27↑) 地学基礎 33.52点(6.49↑)
化学基礎 24.65点(3.55↓) 生物基礎 29.17点(2.93↓)
物理 57.82点(2.86↓) 化学 51.06点(3.73↓)
生物 72.65点(15.09↑) 地学 46.65(7.14↑)

公民の倫理と政治経済、専門理科の生物と化学の間に20点以上の点差があり、得点調整が行われることが発表された。得点の換算については、大学入試センターのHP上で閲覧できる。
(例) 政治・経済…(調整前)50点 → (調整後)58点

豆ニュース…試験会場で「鼻出しマスク」を注意され40代の受験生が失格になるという珍事が！

進学スケジュール 貳月	☆1/30(土)～2/1(月)	ベネッセ大学入学共通テスト模試(ⅡAS全G希)
	☆2/5(金)	小論文模試リライト(ⅠⅡAS全)
	☆2/6(土)～7(日)	高2駿台共通テスト模試(ⅡAS希)
	☆2/15(月)	スタディサポート(ⅡG全)

今度は君たちの番！共通テストに向けてどう対策する？

今月・来月の連載企画です。今月はまず、国語・数学・英語の3教科について、今後に向けてのアドバイスです。来月は地歴・公民と理科を予定しています。

【国語】

新傾向の問題としては、評論文で生徒の「学習の過程」に即した空欄補充問題、小説で作者の意図と資料として提示された評者の見解の相違を考察する設問があった。第3問の古文は歴史物語の『栄花物語』が出題された。歴史物語の出題は、25年ぶり。第4問の漢文は五言古詩と短い漢文から出題された。古典は従来とあまり変わらない。和歌の説明文が組み込まれた問題があったが、センター試験でも和歌はよく出題されている。文法や敬語の独立した設問はなかった。

漢文で古詩が二年連続で出題された。詩と文章という二つの素材の組み合わせによる出題は、今後定番化するのではないと思われる。

～～来年度に向けてのアドバイス～～

複数素材(文章・条文・グラフ・表・図・写真・会話など)の出題が想定される。今年度とは素材の組み合わせが異なる可能性も大いにある。問題演習や模試でさまざまなパターンを経験しておこう。しかし、複数素材の問題に慣れることよりもっと重要なことは「読解力をつけること」。これが大前提である。ごくあたりまえのことだが、出題形式がどうあれ、「書かれている内容を理解し、設問要求に合致する選択肢を選ぶ」という国語の読解の基本姿勢は変わらない。特に古文・漢文においては、身につけなければ読むことすらできない知識(古文単語・文法力、漢文重要漢字・句法力)を完全に覚え込み、良問であるセンター試験過去問で「評論・小説・古文・漢文」を80分間で解く訓練を繰り返し行い、その上で共通テスト対策に進むことが重要だ。

【数学】

数ⅠAにおいて、会話文の問題が出題されたほか、陸上の短距離走に関する2次関数の問題が出題された。試験時間は60分から70分になったが、ページ数が7～8ページ増えたため、時間の余裕はない。必答問題が2題と、選択問題3題から2題の選択、合計4題を解答する形は、昨年までのセンター試験と同様であった。

数学ⅡBでは、第1問〔2〕は会話文で指数関数と三角関数の類似性に関する問題が出題された。与えられた選択肢から選ぶ形式の問題が増加している。ページ数は20年度センター試験の10～12ページから14～16ページと大幅に増え、取り組みにくい設問もあるものの、やや易化した。

～～来年度に向けてのアドバイス～～

数ⅠAでは、その年の難易度に関わらず高得点をとることを考えて準備しよう。高校数学の土台となる分野なので、共通テストにおいても基本の理解を問う出題が多く含まれる。いきなり入試レベルの問題に取り組むのではなく、教科書の例題、練習問題、節末問題、章末問題レベルへと、少しずつステップアップしていくのが一番の近道だ。共通テストでは、対話形式で問題解決を行う問題、PC画面上で関数のグラフや図形を動かすときの考察を行う問題、日常生活での数学の活用場面を切り取った問題、などセンター試験よりも出題の仕方が幅広くなるが、まずは「計算を最後までやり抜く」、「図やグラフを描いて考える」といった基本的なことを地道に積み重ねることによって、確固たる基礎を身につけよう。公式や解法の原理をきちんと理解してから先に進むような勉強を心がけよう。

数ⅡBでは、ⅠAよりも発展的な出題が多い一方、ⅠAの学習を土台としているため、ⅠAが未完成な状態では高得点は望めない。まずは早くⅠAの基礎を完璧にしよう。抽象的に考えさせる問題が多く、また計算量も多いため、時間が足りないと感じることも多い。限られた時間で正確に解けるように演習を繰り返そう。

【英語】

毎年出題されていた発音・アクセント問題や、文法・語法問題、整序英作文問題などの知識を問う問題がすべて廃止され、読解問題のみ。それに伴い総語数が増加し、リード文もすべて英語となった。出題内容は、ショートメールのやり取り・ファンクラブの案内文・旅行代理店のウェブサイトなど身近な話題を扱った英文から、スポーツにおける安全性・甘味料の栄養素といった説明的文章まで多様な題材であった。多くの大問に図表やグラフが付随しており、複数の情報源から概要・要点を把握する必要のある設問も出題された。

試験全体の総語数は約5,500語で、昨年のセンター試験を1,200語以上も上回った。

～～来年度に向けてのアドバイス～～

発音・アクセントや文法・語法の知識を直接問う問題が出題されなくなったからといって、語彙や文法的重要性が低くなったわけではない。語彙や文法の学習では、その意味だけでなく正しい発音やアクセントを意識しながら声に出して覚えていけば、正しい音が定着し、リスニングの得点にもつながる。必要なことは、まず語彙や文法の知識を盤石なものにすること。そしてその知識を「正しく」「迅速に」活用できるようになるためにも、たくさんの英文を読む練習をすることだ。遅くとも高3の1学期までには英検2級レベルの語彙や英文法の学習を一通り終えよう。高1のうちに英検準2級～2級レベルの語彙や英文法の学習を一通り終わらせ、高2ではより多くの英文に触れながら、知識を確認していく。その上で、模試や過去問を用いて問題を解く経験を積み、図やグラフを活用しながら長文を読解する練習をしよう。